

# 平成 22 年度事業計画書

(財) 仙台応用情報学研究振興財団

応用情報学に関する学術、技術の研究開発を推進し、かつ研究開発の成果の公開と人材の育成を図り、もって宮城県の産業の振興発展と県民の福祉の向上に寄与することを目的として、平成 22 年度は下記の事業を行う。

## [公益目的事業]

### 1. ICT 利活用による地域農業活性化実証試験への支援

色麻町産業開発公社が主体となって推進する地域農業活性化に資するブロードバンドユビキタスサービスの実証試験が計画されており、当該実証試験の対象となるアプリケーションの企画設計・開発の支援を行う。

当支援事業の成果が農業を抱える郡部地域の住民の生活安定に寄与するものであることから、公益目的事業として位置づけ実施する。

### 2. フォトニック結晶技術の研究開発

総務省の委託事業は終了したが、フォトニック結晶の基礎及び応用技術について、引き続きフォローしていく必要がある。この研究開発は同分野における技術の発展の基本となるものであることから、公益目的事業と位置づけ推進する。

### 3. 応用情報学に関する優れた研究・論文に対する顕彰

応用情報学分野の研究者を育成する事業の一環として行う。

(社) 情報処理学会と連携し、次の顕彰を行う。

- ・情報処理学会東北支部大会の優秀論文の顕彰
- ・情報処理学会 DPS 研究会 (マルチメディア通信と分散処理研究会) の優秀ソフト作品の顕彰

### 4. その他研究活動等への支援

直接的あるいは間接的に公益に寄与するという認識のもとに、当財団の役員、研究員による以下の研究活動等への支援を引き続き行う。

#### (1) ソフトウェア関連技術の研究

先進的なソフトウェア技術に関する調査研究

#### (2) ソフト系 ICT 分野における地域活動への支援

東北 IT 産業推進機構など地域の産学連携組織への積極的な支援

#### (3) ICT 利活用に関する地域活動への支援

- ・地域中小企業活性化支援
- ・医療と介護福祉のサービス連携活動支援

[収益事業]

1. 収益事業案件の積極的な受注活動の推進

公益目的事業の遂行および当財団の運営維持のため、企業、団体に対し、委託調査等収益事業案件の受注活動を積極的に展開する。

[その他事業]

1. 「学会」事業の推進

平成 22 年度は若手研究者に対する奨学助成を行う。

以 上